

## 令和8年度1学期 始業式

皆さん、おはようございます。新しい学期の始まりを迎えました。

今日は、皆さんにとって大切な「節目」の日です。人は、この節目をきっかけに成長すると言われます。だからこそ今日、ほんの少しでいい。いったん立ち止まり、自分自身を振り返ってみてください。これまでどんな時間を過ごしてきたのか。そして、これからどこに向かっていこうとしているのか。迷っていても構いません。立ち止まることは、前に進むための準備です。

春は「出会いの季節」です。新しい友だち、先生、授業、部活動。そして、一冊の本や一つの言葉との出会いが、人を変えることがあります。出会いは、新しい価値を運んできます。だからこそ、自分の心が動いた瞬間を大切にしてください。そのときに必要なのは、大きな決断ではありません。ほんの少しの挑戦でいいのです。少し勇気を出して声をかける。少しだけ努力を重ねてみる。今まで避けていたことに、一步踏み出してみる。それでいい。完璧である必要はありません。大切なのは、結果ではなく、「あのとき、自分は本気だった」と言えるかどうかです。

ここで、皆さんに一つ伝えたいことがあります。皆さんは、どんなときに「いい笑顔」になりますか。うまくいったとき、勝ったとき、認められたとき。もちろん、それも一つです。しかし、本当に人の心を打つ笑顔は、その裏側にある「真剣なまなざし」から生まれます。苦しいとき、うまくいかないとき、それでも逃げずに向き合っているその瞬間。その真剣なまなざしがあるからこそ、その先に、本物の笑顔が生まれるのです。輝く笑顔は、真剣に取り組んだ人にしか生まれません。最初から、うまくいく必要はありません。遠回りをしたからこそ見える景色があります。立ち止まったからこそ気づくことがあります。その時間が、皆さんの力になります。皆さんがこれから経験する出会いも、挑戦も、そして、うまくいかないことや遠回りも、すべてに意味があります。その意味を、どう受け止めるか。どう考え、次にどうつなげていくか。そこに、皆さん一人ひとりの成長があります。

本校の校是「探真究理」とは、まさにその姿勢のことです。自分で見て、自分で感じて、自分の頭で考え、自分の言葉で語る。誰かの答えをそのまま使うのではなく、自分なりの答えを、自分で確かめにいく。出会いに心を動かし、ほんの少しの挑戦を重ね、うまくいかないときにも「だからどうする」と考え続ける。その積み重ねこそが、「探真究理」の実践です。「探真究理」とは、特別なことではありません。皆さんの日々の一步一步、そのものです。この高校生活が、皆さんにとって「自分を知る旅」となり、その先に、皆さん自身の輝く笑顔が生まれることを願っています。

挑戦(チャレンジ)が、変化(チェンジ)を生み、機会(チャンス)をひらく。ほんの少しの一步でいい。その一步が、未来を変えていきます。

皆さんの「真剣なまなざし」と、その先にある「輝く笑顔」を、心から期待しています。

校長 一井 育